

編集：山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp

きついぜ！ 顔も凍るこの寒さ

北海道の冬を経験したことがある方には笑われるかもしれないけれど、こちらの冬がこんなに寒いとは予想もしてなかった。今年のアメリカは異常気象で、年末年始にかけてテキサス州やアーカンソー州でも大雪があった。中西部のアイオワ州周辺では、華氏でマイナス 10 度（摂氏ではない！）を下回ったこともあった。私が昔訪ねたことのある南部ルイジアナ州の知人宅に電話したところ、ここでも雪がばらついたそうだ。



ここ DC 周辺でも、日中の気温が氷点下の日はざら、時にはマイナス 10 度の日すらあった。時々積雪もある。気温が低い時の雪は、結晶がとても綺麗で感動的だ。でも、雪が降れば表の雪かきは近所への礼儀。家の前を皆が歩くサイドウォークが通っている家は、雪かきをきちんとやらないと、後で転んだ人でも出たら大変である。うちは幸いサイドウォークがないからいいが、それでも車の出し入れがしやすいよう、朝はスコップを片手に外に出る。

寒くて外を歩いている人はまばらで、子供を外で遊ばせることすらできなかった。着任早々で友達も少ない子供達は、一日中家にいることが多く、ストレスもたまり気味。それに付き合う美澄も疲れ気味だった。毎日の通勤は、マフラーと手袋が手放せない。それでも頭が痛くなり、深呼吸すると肺の中が凍り付いて一時呼吸困難になる感じだった。耳あてが欲しくなった。

1 日中室内暖房をガンガン効かせた 12 月、ガス代金が 238 ドルに達した。セントラルヒーティングをやめて電気ストーブにしようかと考えたこともあるが、電気料金はガス料金よりも高いらしい。結局、時々暖炉で薪を燃やし、夜間の室内温度設定を低めにしてガス料金の節約を図ろうという涙ぐましい努力すらした。厳寒の地というわけでもないが、寒さの厳しい土地での生活は大変である。

だが、そうした寒さも 1 月後半にはやわらぎ、日中の気温が 10 度に達した日も出てきた。このまま暖かくなるといいのだけれど・・・

みきちゃん & ちーちゃんの託児所巡り

年明け早々、最初の課題は子供達に通える託児所を探すことだった。世銀の託児アドバイザーからもらった託児所のリストと、バージニア州北部のイエローページを参考に、先ず 5 校をリストアップし、さっそくコンタクトを開始した。

こちらは、先生 1 人当りの児童数に制限があり、どこの託児所も児童定員数がある。3 歳 6 ヶ月の樹生の方は比較的空きもあったし、待機リストの待ち児童の数もそれほど多くはなかったが、19 ヶ月の千智の場合は、選択の余地が殆どなかった。そもそもオムツの取れていない 2 歳半未満の児童を預かってくれる託児所が少ない。空いているところは雰囲気がいま一つで、ここなら通わせたいと思う託児所は

早くて半年待ちという有り様¹。

さらに、馬鹿にならないのが月謝で、仮に2人同時に通わせるとなると、いくら安くても1400ドル以上かかる。特に年齢の小さい児童の月謝が高い。樹生なら600ドル台でなんとかなるが、千智の月齢だと800ドル台に跳ね上がる。

結局、千智まで預けるのは親のエゴかなという美澄の意見もあり、当面は樹生だけを通わせることにした。合計7校を見て、結局、自宅から車で10分程度のMcLeanにある「Westgate Child Center」を選んだ。ここも日本人の児童がやけに多い点は少し不満ではあったが、あまりアメリカ式の教育にとらわれず、文化や言語の多様性への理解を促す育児姿勢には共感を覚えた。JICAに勤める限り、またどこの途上国に赴任するとも限らない。樹生には、そんな「世界どき回り」の中で、訪ねた土地の人と文化をすぐに受け入れられるよう育ててほしいと思う。千智は、美澄の情報収集の結果、週1回1時間程度の児童向け運動プログラム「Gymboree」に通わせることになった。

折角まともな日本語が身に付いてきた矢先に、いきなり言葉もわからない環境に放り込まれ、樹生も最初は大変かもしれないが、頭が堅くなった私達に比べたら、慣れるのも時間の問題だろう。樹生の託児所生活は、2月1日から始まる予定だ。

持つべきものは隣人 - Hello, East Falls Church

家族も到着したことだし、向う三軒両隣りには家族ともども挨拶に行こうと思っていたが、寒さが厳しかったことと、週末は買い物等も多かったことがあって、1週間ほど挨拶をしそびれてしまった。米国国際援助庁（USAID）出向中の藤江さん御夫妻が12月初頭に一軒家に引越した際、周辺の家ポストに挨拶状を投函した前例にならい、私達もクリスマスカードを同封した挨拶状をしたためて、各家に投函した。自分達はアメリカでの生活が初めてだから（ウソ！）、わからないことがあったら教えて欲しい、もし地域のルールに反したことをやっていたら是非指摘して欲しい、と書き添えた。

それでも年末まで周辺からのコンタクトはなく、そんなものかなと思い始めた矢先の元日の午後、家の前の路上で、左隣に住むトーマス、通りをはさんで右はす向かいに住むサリーとばったり会い、挨拶することができた。その直後、サリーは我が家を訪ねてくれて、丁寧な挨拶状と一緒にケーキの差し入れまでしてくれた。トーマスは現役の陸軍職員で、サリーの方は御夫妻とも建築家という共働き家庭だ。どちらも樹生より少し大きい子供がいる。早速美澄はサリーに子供の保育園のことを聞いたりしている。

さらに、右隣のヒントン御夫妻からもわざわざご自宅にお招きいただく機会があった。夫のボブさんは海軍退役軍人で、1970年代初頭に横須賀に3ヶ月ほど駐留したことがあるという日本ひいきで、今はディズニーのキャラクターグッズの収集を趣味となさっている。ヒントン御夫妻は、我が家の前の住人だったマーク&タチアナからも以前紹介されていて、Quantico Streetに30年住んでいるという町の生き字引なので、大切にしないとと思っていたところだった。

考えてみれば、年末というのはクリスマス休暇のシーズン、家を空けた人もいるし、既に予定を入れていた人も多かったのではないか。逆に、クリスマスが終って新年のカウントダウンが済めば、1月2日から仕事の人も多かったのだから、そこから初めて新しい隣人との交流を考え始めたということだろう。我が家の向かいには、1月末になってイギリス人の外交官の方が入居してきた。未だ挨拶はしていないが、年齢的には私達に最も近いので、交流を楽しみにしている。

因に、我が家のあるアーリントン郡East Falls Church住区には、「Arlington-East Falls Church Civic Association (AEFCCA)」という住民組織があって、1月中旬に集会があったので出席してみた。私達の日常生活と直結する議題は少なかったが、地下鉄の駅前の交通渋滞現象とか、20年後にはこの駅からダレス国際空港まで支線が敷かれる計画とか、Westover図書館の移転問題とか、地域が抱える問題について垣間見る良いきっかけになった。

¹ ワシントンポスト紙によると、コロンビア特別区（DC）の場合はもっと悲惨で、18ヶ月未満の子供5000人以上が半年以上の待機を強いられているとか。それだけ共稼ぎの家庭が多いということなのだろう。

互剣士ここに誕生！？

昨年 10 月に着任したばかりの頃、McLean の日本食材店「Naniwa」で、東海岸を中心とした剣道クラブ「志道学院」の会員募集の記事を見た。家族も到着して生活にも少しゆとりができたので、久しぶりにそのクラブの HP をよく見直してみたら、バージニア州の道場コーディネーターは鈴木さんという世銀在勤の日本人職員で、私が仕事の関係でこれからアプローチしようとしていた方であった。

さっそく鈴木さんに話したところ、是非参加してほしいとの熱烈ラブコールを受け、6 年振り²の稽古で不安はあったものの、剣道を再開することにした。場所は、自宅から西に車で 15 分ほどの Oakton という町の小学校の体育館で、毎週金曜日の練習である。

先生は中国系アメリカ人のヤンさん、日系人のマホーニーさんの 2 人で、他の常連有段者は鈴木さんだけ。子供の部はこれら先生方のお子様にも、その友達が何人かいた。子供達が剣道をやる動機は、親が習わせたいと思っているからなのだろうが、面白いのは金髪のアメリカ人が大人になってから剣道を習いたいというケースで、摺り足も切り返しも覚束ない T シャツ & ジャージ姿の大人が、毎週 4~5 人は参加している。きっと、防具を付けた剣士の姿に惹かれて始めたのだろう。中にはもう防具を付けて練習をやっても大丈夫な人も 2 人くらいいた。

私の位置付けだが、ブランクがあっても二段は二段、三鷹の義父に防具と竹刀を宅急便で送っていただき、月末最後の練習には防具を付けて参加して、普通に練習をこなした。胴がお腹にフィットするかどうか不安だったが、大丈夫だった。練習中は、さすがに左手の握力はなくなり、すぐに息切れして連続技の冴えもなかったけれど、心地よい汗を流すことができた。初心者に英語で指導するのは大変だが、精神的にアメリカ人より優位に立てる唯一の機会でもあり、続けたいと思う。

この練習には、時々樹生を連れて行く。まだ 3 歳半で剣道を始めには少し早いですが、竹刀を振り回すことには興味を持ったようで、私と一緒に素振りに加わろうとする。子供の練習が终れば、遊び相手のお兄ちゃんお姉ちゃんもいるので、隣のバスケットボール・コートで遊んでいてくれる。もう暫くは、「行きたい」と言えば連れて行き、4 歳を過ぎたら打ち込み練習に加えようかと思っている³。

6 年間の間に、道場がそもそも存在しないカトマンズと、道場が近くにあっても仕事で早く帰れなかったり子供が小さかったりして練習に行けなかった東京での生活を経験した。任期を終えて日本に帰れば、また平日の練習は難しいかもしれないが、その時には樹生を連れて行ける休日の道場を探して続けたいと思う。



ただ今英語で苦戦中

ネパール在勤時と違って、今回は英語で仕事ができいいですねと言われる。確かに「ネパールに行け」と言われた時に比べれば心理的な抵抗はあまりなかったのは事実だが、ネパール在勤時に世界銀行や他国の援助機関の専門家と侃々諤々の議論をやった経験から、前途は多難だと覚悟はしていたし、実際に多難だった。

「OP/GP/BP」「OPE」「DAP」「ECA」「SAP」等等。こちらの人はやたらとアクロニム（頭文字だけを並べた専門用語）を連発する。唯一わかったのは「NGO (Non-Governmental Organization)」だけだ。配属先の協調融資局 (TFC) は、局長を含め、パキスタンやバングラデシュ等、南アジア出身の職員が多い。JICA

² 1994 年当時は、美澄と付き合い始める前の半年程度しかやってなかったので、実質的には高校卒業以来 18 年振りの剣道ということになる。

³ 樹生に武道を習わせる話は美澄ともするが、剣道をやらせたい私と、合気道をやらせたい美澄の間で意見の調整ができていない。私が剣道を再開したのを見て、美澄も合気道を再開しようと考えているところだ。

で南アジア関係の仕事をしていて、この地域の国の高級官僚はやたらと弁が立ってタフなネゴシエーターだと痛切に感じていたが（その点ではネパールの役人は田舎育ちの人の良いオジサンだった）、国際機関で勤務する職員はそれに輪をかけて論理的で英語が達者である。1分間で単語をいくつ話すかコンテストをやったら金メダルでも取れそうなベンガル人のお姉様もいらっしやる。JICAにいと、南アジアは被援助国として、「上から下を見る」感覚で見えてしまうが、世銀にいと、よくて対等か、「下から上を見上げる」感覚で、日本が恐ろしく辺境の発展途上国であるような錯覚に陥る。家族と接して日本語オンリーの週末を過ごした後の月曜日の朝は、出勤が憂鬱で仕方がない。

「U. S. TOWN JOURNAL」という月刊邦字紙 12月号に、日本人が英語の世界に身を投じて、英語を喋ることを余儀なくされた場合に辿る過程について紹介されている。今の自分の心境を如実に語っているので、そのまま引用する。（下線部は私の特に強調したい点）



まず、最初の半年間は、耳から入って来る英語が「隔靴搔痒」の感で、あやふやな期間である。そして、自分が話す英語は、それまでに習い覚えていた日本式英語をたどたどしく口にするより致し方がない。いわば、相手の言うことはろくにわからないで、自分の意志だけを向こうに知らせる努力をする「一方的会話」である。

（中略）

成人となって日本語が establish している人が、アメリカで「耳が慣れた」半年から、一、二年すると英語は「曲がりなり」にも話せるようになるものの、自分ではトチトチしているよう

で、卑下感がつきまとうものである。言いたいことをまず頭の中で考えて、英語を組み立てて、いざ口に出すと、発音もアクセント（抑揚）もメチャメチャであるのが痛いほど耳に付いてやり切れない、イライラする、癢にさわる、情けなくなることの繰り返しである。

上手な英語とはお義理にも言えないまでも、相手から聞き直されたり、失笑を招かないで、込み入った話を、言い残しなく説明し切るまでに上達するには、どうしても五年はかかると見てよい。

（中略）

日本で一定見を持った人が、もどかしい思いをして、英語で自分の意見を述べた時には、後味の悪い不快感がつきまとうであろうことは容易に想像できるものである。従って、日本人は「馬鹿にされないように」初めから「沈黙は金なり」の鉄則を実践する傾向があるのかもしれないし、また、本人は日本に帰れば地位は保証されているのだから、無理して英語が上手になる必要もないと割り切っているということも、英語が上手にならない理由として考えられる。

情けないかな、今の自分はまさにこの状態。

編集後記

- 実は、この「サンチャイ通信」、オフィスの昼休みを使ってコツコツ入力しています。私のラップトップはオフィスに置いてあり、ソフトウェアは「Word」を使っています。家族を呼び寄せた時、美澄はIBMのラップトップを携行していましたが、「Word」がインストールされていませんでした。このため、12月に作ったレイアウトを使用した今回も作業がオフィス中心となり、美澄にコラムを書いてもらうことができませんでした。子供達の行き場も決まった2月は、場所を自宅に移し、レイアウトも少し変更して、装いも新たに夫婦共同作業で編集を行ないたいと思っています。（浩司）